

# 浜

# 私

# 幼

(公社) 横浜市幼稚園協会 協会報 No281

加盟園保護者の皆さまへ

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行  
〒221-0055  
横浜市神奈川区大野町 1-25  
横浜ポートサイドプレイス アネックス 5F  
電話 045 (534) 8708  
<https://www.kids-yokohama.or.jp>  
編集 横浜市幼稚園協会広報部  
発行者 苅込 大  
印刷所 株式会社横濱大氣堂



公益社団法人横浜市幼稚園協会  
会長 苅込 大

## 協会長からのご挨拶

皆さま、はじめまして。令和3年度、横浜市幼稚園協会の会長を拝命いたしました、苅込 大と申します。今年度1年間どうぞ宜しくお願いいたします。

昨年度は新型コロナウイルスの流行と感染拡大防止対策により、ほとんどの幼稚園が3月頃から約3ヶ月間休園となりました。当園では6月からは分散登園が始まり、週に2日ほどの登園となりましたが、園児全員と顔を合わせるまでには時間がかかりました。“おはよう”そして、“またあしたね”というような先生と園児たちで当たり前のように行われていたやりとりも見られない日々、今まで経験したことのない不安な気持ちを覚えました。

夏休み前から園児が揃い、保育は行われるようにはなりましたが、保育や行事の見直しを余儀なくされ、現場の混乱と努力は大変なものでした。さらに、この約3ヶ月の休園が子ども達の成長にどのような影響があるか懸念しておりましたが、やはり、言語取得能力や判断力、集団生活における他者を意識する力など、年齢が低いほど影響が大きかったと感じています。

低年齢からの教育が大切であると理解していましたが、休園を通して改めて日々の教育の積み重ねがいかに重要であるかを思い知らされました。この遅れを少しでも取り戻せるように、保護者の皆さまと力を合わせていきたいと考えています。過日、協会加盟園の保護者の方から、コロナの影響で未だに幼稚園に通えていない園児もいると聞き、本当に衝撃を受けました。6月21日から順次ワクチン接種券が発送されています。接種券が届いたとしてもすぐに予約や接種を受けることが出来るとは限りませんが、この会報が皆さまの元に届く頃にはワクチン接種が進み、心配が少しでも払拭されていることを願います。

さて、教育・保育に関しては昨年度「よこはま☆保育・教育宣言」が策定されました。市内における多様な保育・

教育施設における全ての保育者の保育の質向上のため、子ども達の日々の関わりの基本となるものとして、横浜の子ども達の育ちの方向性が示されています。この宣言には、子ども達が安心できる環境を作り、一人ひとりを大切にする保育や、子ども達の育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にするに加え、育みたい資質・能力として認知能力・非認知能力について記されています。認知能力とは、IQやテスト、運動能力などの具体的に分かる結果や数値化できる力のこと。非認知能力とは、感情や心の動きなど数値化できない分野の能力のことをいいます。非認知能力の例えをあげると、子ども達自身が自分の意志で行動したり好きなものに夢中になる力、友達と協働したり、人を思いやることもその一つです。自分の感情をコントロールしたり、自分のことを好きだと思える自己肯定感も非認知能力の一つだと言われています。明確に成果としてすぐ答えが出るものではありませんが、社会と関わる力、生きていくための大切な力と言えるのではないのでしょうか。

認知能力も非認知能力も、これからの社会を担う子ども達にとってどちらも大切です。これからの幼稚園・認定こども園は、園生活を通して双方をいかにバランスよく育てるために、保育者、保護者、地域の方々と共に考えなければならないと思っています。

私は、非認知能力を育むためには、やはり“愛情”が大切だと考えます。「自分を愛してくれる人がいる」、という絶対的な安心感が、自分で自分を受け入れる力を育てます。幼稚園・認定こども園は保護者の皆さまと共に、皆さまの大事なお子さまの、意識・意欲・強い意志を持った立派な社会人としての基礎を育んでいきたいと思っています。

最後に、知人である素敵な園長先生が残して下さった「人と人の中で人は育つ。人と人との触れ合いを大切に」という言葉を、読んでくださった保護者様に贈ります。



# 令和3年度 横浜市幼稚園大会

公益社団法人横浜市幼稚園協会と横浜市幼稚園父母の会連合会の共催により、令和3年度横浜市幼稚園大会が、「守ろう 子どもたちの笑顔 支え合おう 未来のために」をテーマに、6月30日(水)に横浜武道館で開催されました。神奈川県における“まん延防止等重点措置”が実施される中での開催となり、運営スタッフを除き、永年勤続表彰受彰者のうち会場参加を希望される方のみでの参加となりました。さらには、体温チェック・手指消毒はもとより、アリーナ中央に舞台を設けるなど、徹底した感染拡大防止策を講じての大会となりました。

横浜さがみ幼稚園の先生方が事前録音した国歌・横浜市歌が流れ始まった本大会には、横浜市長 林文子様、横浜市会副議長 高橋正治様をはじめ、横浜市区より自由民主党・無所属の会、公明党、立憲民主党・国民フォーラム、こども青少年・教育委員会委員長、横浜市こども青少年局長をはじめとしたこども青少年局の方々にご来場いただくとともに、行政、養成校、県内各協会長の方々にはオンラインにてご視聴いただきました。

冒頭、横浜市幼稚園協会 苅込大会長より、「近年幼児教育の重要性が改めて認識されています。少子高齢化が進む社会を担っていかないといけない子どもたち一人ひとりの育ちが益々大切になります。幼稚園に通う期間だけではなく、一人ひとりの子どもたちが幸せな人生を生き抜くための人間としての土台作り、立派な社会人としての基礎を育むことが求められていると思います。たくましく生き抜くための自己肯定感をしっかりと身につけられるように、一人ひとりが健全に成長できるよう、保護者の皆さまと力を合わせ、深い愛情を持って日々の教育・保育をしていくことではないかと思います。そうした原点を大切に教育・保育をしていく上で、近年の少子高齢化、人口減少という社会現象、昨年度からは新型コロナウイルスへの対応もあり、まさに私立幼稚園の基礎体力が問われているのではないかと思います。一つ例を挙げますと、昨年、全国への緊急事態宣言の発令により、4月から2ヶ月ほど休園せざるを得なくなりました。子どもたちは幼稚園に通うことによって、初めて社会に出てご家庭以外の大人と接し、友だちも出来るわけですが、そうした社会に馴染んでいくスピードが、この休園の影響で遅くなっていると感じております。本日受彰される皆さまの中にも、今お話ししたような感覚をお持ちの方が多くいらっしゃるのではないかと思います。この事が成長の過程でハンデにならないように、いかに取り戻していくのか、保護者の皆さまと力を合わせて取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。このように、一人ひとりの幼児の人生を見通した教育・保育をするためには、教職員の人員確保、そして質の向上が求められます。また、晩婚化、晩産化、そして共稼ぎ家庭が増えていく中で、様々な立場の方々々と手を繋ぎ、子育てがしやすい環境作り、地域作りをしていかななくてはならないと思っております。こうした重要な課題の一つひとつに、真摯に、そして誠実に取り組んでいくことが、私立幼稚園の基礎体力を向上させることに繋がると思っています。本日 423 名の教職員の方々が受彰されます。子どもたちの成長する姿を見たり、卒園しても困ったときに自分

を頼ってくれるという関係を作ることは無上の喜びでしょう。私たち幼稚園関係者は、子どもたちとの関係を一生のものにすることができるように、皆さまと共に努力することが必要ではないかと思います。本日受彰される先生方、誠にありがとうございます。どうぞ長きにわたり、子どもたちの成長並びに教育・保育の質の向上のために益々ご尽力いただきますよう衷心よりお願い申し上げます。と挨拶がありました。

続いて、横浜市幼稚園父母の会連合会 松本亜由美会長(野毛山幼稚園)より、「日々子どもたちを思いやり寄り添ってくださる先生方に、私たち保護者は感謝の気持ちでいっぱいです。また、子どもたちが安心して通えるよう、感染防止対策をしてくださっていることに、心から感謝申し上げます。今大会のテーマは『守ろう 子どもたちの笑顔 支え合おう 未来のために』です。コロナ禍の今、未来ある子どもたちの笑顔を絶やさず守っていききたい、皆さまと支え合っていきたいと願いを込めて決めました。これからも子どもたちの成長を先生方と共に見守っていききたいと思っております。私たち父母の会連合会の活動ですが、先日横浜市会の各政党へ訪問をいたしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の更なる充実や、今後も将来を担う子どもたちが安定的により質の高い教育・保育が受けられるよう要望を訴え、私たち保護者の声も伝えさせていただきました。また、今年度は秋に父母セミナーを開催いたします。9月10日(金)に気象予報士の木原実さんをお招きし、『家庭で出来るお手軽減災法』をテーマにお話しいただきます。オンライン配信の予定ではございますが、是非沢山の方にご覧いただきたいと思います。令和3年度父母の会連合会は幼稚園協会と連携しながら、幼稚園と地域社会の橋渡し役となり、子どもたちの幸せに繋がるよう努めて参りたいと思っております。」と挨拶がございました。

その後、横浜市幼稚園父母の会連合会 若山優子副会長(根岸幼稚園)より大会宣言が提案され、拍手を持って採択され、あわせて令和3年度横浜市幼稚園父母の会連合会の諸役の方々が紹介され、続いて令和2年度父母の会連合会役員の方々への感謝の気持ちが伝えられました。



▲協会表彰の様子

5年、10年、15年、20年、30年の順で永年勤続教職員協会表彰を行い、来場された66名の教職員の方々がそれぞれのグループに分かれ登壇し、各グループ代表の先生





▲表彰を受ける先生たち

が苅込会長より賞状を受け取りました。引き続き行われた市長表彰では、15年、20年の教員の方々が登壇され、林文子横浜市長より代表者に賞状が渡されました。さらに林市長より、「幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を築くものです。子どもたちは幼稚園や認定こども園での友だちとの関わり、自然とのふれあいから豊かな感性や優しさを育み、思いやりの大切さに気付きます。そして何より、子どもたちが笑顔で過ごせる環境を先生方が日々整えて、根気強く温かく導いてくださるからこそ子どもたちの生きる力が育まれていくのだと思います。横浜市は、働くご家庭のお子さまにも幼児教育を受けていただくように、“横浜市型預かり保育事業”を進めています。皆さまのご協力のおかげで、現在預かり保育を実施している横浜市内の幼稚園、認定こども園は203園にのぼります。平成30年度からは、“私立幼稚園2歳児受入れ推進事業”も進めています。お陰様で、2歳から小学校入学までを同じ幼稚園で過ごしてもらうことで、安定した環境で、子どもの育ちに応じた教育・保育を提供できるようになりました。また去年は、教育・保育現場の皆さまとご一緒に、子どもたちの日々の関わりの基本となる、“よこはま☆保育・教育宣言”を定めました。皆さまが長年の実践を通じて積み重ねてこられた幼児教育のノウハウは、横浜にとっての大きな財産となっています。私たちは一年以上にわたり新型コロナウイルスとの戦いを続けています。今横浜市が全力を注いでいるのは、コロナ終息の決め手となるワクチン接種です。国や県、医療機関の皆さまと緊密に連携し、接種を迅速・着実に進め、市民の皆さまの命と暮らしを守るようにしていきます。教育・保育現場の皆さまには、日々検温や消毒といった感染症対策を講じ、献身的に子どもたちとご家族を支えていただいております。行事やイベントは例年と異なる対応が必要となり、ご苦労も大変多いと思います。そうした状況でも皆さまが毎日、笑顔と温かなまなざしで、しっかりと寄り添っていただいているお陰で、子どもたちは楽しい毎日を送ることができています。子どもは一人ひとり

未来に大きな可能性を持つかけがえのない社会の宝です。横浜市は今後も皆さまと手を携え、将来を担う子どもたちの健やかな育ちをしっかりと支えて参ります。変わらぬお力添えをお願い申し上げます」とご祝辞をいただきました。



▲市長表彰の様子

さらに、高橋正治横浜市会副議長より、「私は幼稚園の時にいろいろなことを教えていただき、木琴に色をつけていただき教えていただき曲が弾けたといったことがフラッシュバックします。幼児教育の大切さは、初めての集団生活の中で、我慢をすることや感謝することやみんなという共同作業していくといった社会性を育てていくことで、大変重要なことであると議会の中でも認識しているところであります。私は今、感謝という言葉を上申しましたが、今回永年勤続を受けられた、長きにわたって働いてこられた皆さまに感謝、感謝という言葉は“ありがとう”という言葉で始まりますが、ありがとうというのは、有難い、神様に使う言葉で、もともと“ありえない”ということが感謝の言葉であり、その反対の言葉というのは、当たり前、当たり前と思うところには感謝が生まれないということを感じております。今日は、表彰された皆さまに感謝するとともに、皆さま現場の声を大切にして、横浜の幼児教育の充実、そして子どもたちの笑顔と、職員の皆さまの笑顔のためにしっかりと取り組んで参りたいと心に決めた次第です。」とご祝辞をいただきました。

最後に、受彰者を代表して、聖ヶ丘教育福祉専門学校附属育和幼稚園の細谷有里先生が謝辞を述べられ、幼稚園賛歌が流れ閉会となりました。



▲勤続表彰受賞者の方達



▲苅込大会長 挨拶



▲松本亜由美父母の会会長 挨拶



▲若山優子父母の会副会長による大会宣言



▲林文子市長より祝辞



▲高橋正治市会副議長より祝辞



▲細谷有里教諭 謝辞



# 第1回横浜市幼稚園新規採用教員研修会

5月26日(水) 保土ヶ谷公会堂

横浜市こども青少年局子育て支援課 幼保小連携担当 藤川由美子

令和3年5月26日(水)、「第1回横浜市幼稚園新規採用教員研修会」が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症状況を鑑み、会場とオンライン参加の併用型の研修とし、新規採用教員180名(オンライン参加174名、会場参加6名)、助言者等を含め総計212名の参加がありました。

今回、Web会議システムを活用したオンライン研修を行いました。新規採用教員の皆さんは操作もスムーズで、とても積極的に受講されていました。皆さんのICTを学ぶに利用する力の高さには、頼もしさを感じました。

研修会の第1部は、採用2年目の教員3名に、1年を振り返った体験談を話していただきました。「大人にとってのあたりまえは、子どもにとってあたりまえではない。子どもの気持ちになって考える大切さに気づいた」「周りの先生に頼ることで気づいたこともあった」「子どもと信頼関係を築き、成長を間近で感じられる喜びがあった」等、一年間で得た気づきが、いろいろなエピソードを通して語



▲教員3名による体験談

られました。誰もが最初に経験するとまどいや不安、そして教員としてのやりがいや喜びに、新規採用教員の皆さんも共感し、明日への活力としていただけたのではないかと思います。

## 先輩の話を聞いての感想



先輩の話を聞いて、実習の時の方が一人ひとりと関わることができた点や、担任になってからはクラス運営で必死である点などとても共感し、私だけでないのだと安心することができました。子どもたちに落ち着いてほしいときは自分が落ち着くことが大切だと学び、これから意識していきたいと思いました。

先輩方のお話を聞いて、一年後の自分が先輩方のように今以上に保育にやりがいや楽しさを感じられているといいなと、未来の自分の姿に期待を抱くことができました。



周りの先輩方に頼ることは自分のためだけでなく、園と子どもたちのためでもあり、相談するときにはまず自分で考えてから、先輩の意見を聞くことが大切であるという話が印象に残りました。私も今すぐに実践しようと思いました。

研修会の第2部には、先輩の話を聞いて、感想をグループで話し合う時間を持ちました。新規採用教員の中には、先輩の話を聞く中で、不安やとまどいは自分一人が感じていることではない、ということを知り、ほっと緊張がほぐれると同時に、自分の保育を振り返るよい機会にされている方もいました。

コロナ禍で、なかなか友人や同僚など、本音を語れる人と話す機会をもてない状況の中、同じ立場の新規採用教員同士で話し合うことで、親近感や心強さを感じ、「また明日から頑張ろう!」という気持ちになった方も多かったことと思います。

そして、グループディスカッションの後は、お茶の水女子大学の宮里暁美先生をお迎えして、「笑顔の保育～子どもたちの健やかな成長を支えるために」という演題でお話をいただきました。宮里先生からは、「笑顔は大切、笑顔は伝染する、先生が笑うと子どもたちはほっとする」「子どもの発見、驚きに共感し、子どもたちがおもしろいと思う経験をたくさんしていくことが大切」「Withコロナの



▲宮里先生の講演



▲助言者(園長先生)を交えて、積極的に語り合う先生方

時代の中、子どもの体験を止めてはいけない、最新の注意を払いつつ、全力で普通であり続けること」など、1時間があっという間に感じられる、明日への活力になるお話をいただきました。

## 宮里先生の話聞いた感想

笑顔の素晴らしい力について学べました。たくさんの驚きを子どもと共有し笑っていききたいと思います。



宮里先生の話では「知る」よりも「感じる」を大切に、という言葉が心に残っています。この言葉を聞いたとき、今の私は日々の業務に追われ、感じるというアンテナが低くなっている気がしました。子どもたちと共に感じ、共有・共感することを大切にしていきたいと感じました。

宮里先生のお話の最後で、「子どもは今楽しいことを見つける天才。そんな子どもといられることに感謝」と仰っていたことがとても印象に残っています。子どもたちの考えや行動に触れて、その瞬間を一緒に楽しみ、更に笑顔溢れるクラスにしていきたいです。



今回の研修で学んだことを大切にしながら、第2回・第3回横浜市幼稚園新規採用教員研修会にもご参加いただき、さらに学びを深めていただけることを期待しています。

## 研修の詳細は横浜市HP

横浜市

検索

トップページ>暮らし・総合>子育て・教育>保育・幼児教育  
⇒保育・教育の質の向上⇒幼保小連携⇒研修・研究情報



# 子育て 教育相談

## ふしぎだな～？ やってみよう！ で 子どもは育つ

横浜市幼稚園協会 子育て教育相談員  
鈴木 由美子

2学期が始まりましたね。夏休みという普段と違う時間を過ごして、子どもたちの中にきっと素敵なものが育ってきていると思います。体も大きくなっているかもしれませんね。

幼稚園時代の子どもの成長発達は見張るものがあります。

3歳、4歳、5歳とそれぞれの年齢での発達課題をクリアして次のステージへと育っていきます。子どもの育ちは直線的なものではなく、らせん階段を上がるよう、と表現されます。今までできていたことをやらなくなった、この頃なんだか気難しい、そんな時期が必ずあります。子ども達が賢くなってくると、周りとは比べる力が育ってきたり、上手にやりたいけどできるだろうか、という自分自身への目が育ってきたりするために、心が穏やかでいられなくなるのですね。なんだかイライラして言うこともすぐには聞かない、そんな時期も見守っているとやがて抜け出して、やらなくなっていたこともまたやりだして、しかも前よりずっと上手にできるようになっているし、一つ上のステージに上がったことで心も落ち着いて、しばらくは明るく素直な時があるでしょう。子どもの育ちには波がある、荒れているときは子どもが育とうとしてもがいているときと思って見守ってあげたいと思います。

子どもたちが人生を切り開いていくためにはしっかりした心の根っこを張ったうえで、自分から情報を集め判断し工夫できる力が大切になってくるでしょう。

人生を支え挫折から立ち直れる力をくれる心の根っこは何でしょうか。

それは周りの人と自分自身への信頼感、この世界には自分の居場所がある、という安心感ではないでしょうか。子どもが安心して暮らせると心は外に向かっていきます。

これはなに？どうなってるの？どうして？ふしぎだな～？そう感じたら尋ねたり、調べたり考えたりが始まりますね。公園でアリがどこへ行くのかじっと見ている子どもに付き合うのは退屈なこともあるでしょうが「ありさんのおうちどこかな～」「ありさんなにしているのかな～」などと自分も子どもの気持ちになって話しかけるのも、楽しいかもしれません。子どもと一緒にだからこそ得られる貴重な時間ですね。

次に大切なのは「やってみる」こと。やってみて失敗することも大切なのですね。失敗したら、どうすればいいかな？と考えることが出来ます。何度も何度も失敗してやっとできた時の誇らしい気持ち、頑張れば

できるという自分自身への信頼が育っていきますね。その時、一緒に喜んでくれる大人がいると喜びは一層大きくなるでしょう。子どもに十分試行錯誤のチャンスと時間を与えること、子どもの気持ちに寄り添っていくことが、大人の仕事になります。自分で見つけたことはちゃんとその子の力になっていきます。

コロナ禍といわれる時を過ごし、なかなか外出も人とのかわりもままならないですね。でも子どもたちにとって人とのかわり、体を十分動かすこと、感覚を十分使うことは、育つためにどうしても必要です。家庭で過ごす子どもたちは うっかりするとネットやゲームなどバーチャルな世界にくぎ付けになるかもしれませんね。

リアルが大切ということを大人が意識して、お友達と遊ぶ、自然と触れ合う、体を思いっきり動かす、全身の感覚を使って遊ぶ、そんな機会を作ってあげたいと思います。家事をお手伝いすることや家庭の中で自分の役割を決めて責任を果たすことも、よい経験になるはずです。

楽しみながら実際に体験することが子どもの脳を健やかに育てていくことであるとわかっています。特に手は、外に出た脳と言われるほど大切なものです。手を使う遊びなら家庭の中でもいろいろできますね。子どものチャレンジ心をくすぐるような遊びを、ぜひ一緒に楽しんでコロナ禍を乗り切っていきましょう。

### ＜参考＞

子どもとコロナについての情報は国立成育医療センターのHPが詳しいようです。

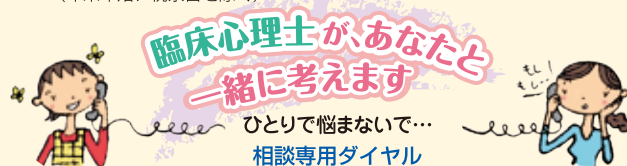
## 子育て教育相談室

【相談日】

毎週火曜日・金曜日  
(年末年始、祝祭日を除く)

【受付時間】

10時～12時／13時～15時



045-534-8837

公益社団法人 横浜市幼稚園協会  
http://www.kids-yokohama.or.jp  
TEL 045-534-8708



## 令和3年度 父母セミナーのご案内

|     |                                 |
|-----|---------------------------------|
| 日時  | 令和3年9月10日(金)<br>午前10時30分～12時00分 |
| 会場  | YouTube配信<br>※お申し込みの必要はありません。   |
| テーマ | 家庭で出来るお手軽減災法                    |
| 講師  | 木原 実 氏(気象予報士・防災士)               |



▲木原 実 氏

### 《経歴》

1986年より日本テレビでお天気キャスターを務め、現在は日本テレビ「news every.」でお天気コーナーを担当。  
2004年防災士資格を取得し、翌年日本防災士会常任幹事に就任。  
著書『異常気象と地球環境(お天気クイズ)』、DVD(出演作品)『みんなだいすきそらジロー そらジローとまなぼうよ』他多数。

YouTube 視聴URL  
<https://youtu.be/dLb8u0-lr9A>  
※配信トラブル等でURLが変更になる場合があります。変更がありましたら、YouTube動画の説明文に予備のURLを掲載しますので、そちらからご視聴ください。



## 令和3年度 父母の会役員 ご挨拶



会長  
野毛山幼稚園  
松本 亜由美

子ども達のために皆様と力を合わせて活動して参りたいです。父母の会活動へのご協力よろしくお願い致します。



副会長  
潮田幼稚園  
眞栄城 エリサ

今年度の父母の会副会長に就任することが出来、大変喜ばしく思います。横浜で過ごす子ども達の笑顔の為に、精一杯努めさせていただきます。



副会長  
根岸幼稚園  
若山 優子

このような機会を頂き感謝しています。子育ての時期を大切に子ども達や皆様と関わりたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。



監事  
桂幼稚園  
吉田 杏菜

大変な状況の中でたくましく生きる子どもたちのため、父母の会の一員として精一杯サポートをしたいと思っています。



会計  
平和幼稚園  
近江 真依

皆様こんにちは。今回ご縁があって会計を担当させていただくことになりました。1年間宜しくお願い致します。

## Congratulation

### 令和3年 春の叙勲 瑞宝双光章

受賞 おめでとうございます

吉原 久雄 先生

学校法人一翠学園

池辺白ゆり幼稚園 理事長



※瑞宝双光章：

国及び公共の公務等に長年にわたり従事し、功績を挙げられた方に対して、国家が表彰する勲章。



## 編 集 後 記

まだまだ続く各園のコロナ対策の中での保育は、今までとは流れの違う保育・環境を模索し、各園前進する取り組みをしながら、子ども達と保育者、そして、保護者との携わりを考えて、工夫し取り組んでいく新たな機会になったのではないのでしょうか。また、子ども達がマスクを日々義務的に当たり前の様にしている姿を見ていると先生と子ども達の向き合い方が何て窮屈なんだろうと感じ、一日も早くマスク無くお互いの表情を垣間見ながら、容易に触れ合うことのできる保育現場になってくれることを心から祈るばかりです。

広報部 名瀬幼稚園 近藤 康弘